

第21回ジャパクラシック パワーリフティング大会レポート

2017年2月25-26日

報告・写真：IPF国際審判

物江 毅

今年のジャパクラシックパワーリフティング(以下J C P Lと略す)大会は、過去の全日本PLやBP大会に於いて幾多の名勝負が展開された愛知県岡崎中央公園体育館で2/25-26の両日開催された。主管の愛知協会を始めとする東海ブロック各県役員・補助員の好サポートにより、会場に集った240余名のアスリート達が素晴らしいドラマを演じて下さった。

私は2/25に第二コート、26は第一コートの陪審員を務めさせていただいた。初日は第2セッションのコスチュームチェックも担当しており、全試技を凝視していた訳ではないので、各グループのレポートに濃淡が出来てしまう事をご容赦いただきたい。

女子の部

今回のJ C P L大会には、47名の女子選手がエントリーした。その中でベストリフターに輝いたのは、47kg級の可児理恵選手。八試技成功、SQ116.5kg(日本新) BP77.5kg DL150kg TL344kg(日本新) F.P462.42という見事な結果で、いつもながら理恵さんの試技をご主人・お嬢様が好サポートしておられ、とても微笑ましかった。

52kg級を制したのはM3・1951年生まれの大ベテラン木村初子選手でTL287.5kg 毎回事のSQのしゃがみの深さに苦労されたが、BP & DLは全試技成功という素晴らしさであった。

57kg級は中井美貴子選手がTL290kgで優勝、M2のベテラン田中彰子選手が3位と健闘した。このクラスのサブJRでは、西田翔子選手(京都府立北桑田高校)が大健闘、一般の優勝記録を上回るSQ140kg DL140kg TL335kg

で見事に優勝。また、JRで優勝した小林展代選手(TXP)もTL285kgで一般の部2位に相当する結果であった。

63kg級では、新婚の西田万留々選手と地元の上田早穂選手という両実力者が、ガチンコ対決。SQでは万留々さんが150kg、上田さんが135kgで差は15kg、BPでは逆に上田さん82.5kg、万留々さん72.5kgでサブトータルは5kg差、DLの第三試技で万留々さんが147.5kgに成功したため上田さんは152.5kgを申請、惜しくも失敗で、優勝万留々さんTL370kg、2位上田さんTL362.5kgという結果となった。



愛知県協会の皆さんの頑張りで、大会は大成功となった。

た。

今回万留々さんにご結婚の祝福をした後写真を撮らせていただいた。通常のスナップ写真も魅力的であるが、試技中の集中した万留々さんはことのほか素敵で、私の Facebook のタイムラインに大会写真を約 800 枚掲載したところ、万留々さんが掲載されているシリーズが「いいね」の回数が圧倒的に多かった。

72kg級では、東京の新屋岡田有加選手と JCPL 大会定連の竹内あい選手が対決。SQ、BP のサブ TL で竹内さんが 12.5kg リードしたが、得意の DL で第三試技 185.5kg の日本新を見事に引き切った岡田さんが TL410.5kg で優勝、竹内さんは 377.5kg で 2 位であった。岡田さんのセコンドには久保匡平さんが入っていた。選手を暖かく叱咤激励するその姿は、毎回本当に好感が持てる。このクラス特筆すべきは JR 京都学園大の窓場加津紗選手が、SQ160 kg BP85kg DL185kg TL430kg と一般の岡田さんの TL を約 20kg 上回り、ダントツ優勝。F.P も可児さんに次ぐ 437.75 という高さであった。

84kg級では地元ちからこぶ所属の梅村優子選手が SQ で 161.5kg の日本新記録に成功、TL389kg で優勝した。

59kg 級

昨年も激しい優勝争いを演じた蛭原孝晴選手と全日本 PL 大会チャンプ・佐竹優典選手に加え、一昨年チャンプ、昨年同大会の SQ で失格した沖縄の宮城善選手の三つ巴の優勝争いとなり、大変見応えがあった。私はこのセッションで陪審員を務めさせていただいた。

SQ では三選手の力量は拮抗しており蛭原さん・宮城さん 197.5kg、佐竹君 190kg、BP では佐竹君 130kg、宮城さん 127.5kg という中で蛭原さんが 142.5kg に成功し、サブ TL で 340kg とし、トップで DL を迎えた。DL の第一試技、蛭原さん 200kg、宮城さん 215kg、佐竹君 220kg に成功し、この時点で三人が 540kg で横一線に並んだ。第二試技蛭原さんは 215kg を余裕で引き切り、宮城さんは 222.5kg に失敗、佐竹君は 230kg に成功し、この時点で、蛭原さん 555kg でトップ、佐竹君 550kg。第三試技で 5kg UP の蛭原さんが 220kg に成功し、560kg で試技を終えた。宮城さんは体重差二位狙いに切り替え 225kg に挑むも失敗し三位が確定、大トリで登場した佐竹君は逆転を賭け 240.5kg の日本記録に挑んだ。私は日本記録のため副審に交代で入った。観客注目の中、佐竹君は 240.5kg を



女子の部、ベストリフター可児選手

引き始めたが、10cm浮いたところで片手のグリップが外れ失敗、蛭原さんの JCLP 大会三連勝という結果となった。試技終了後佐竹君に「この悔しさをバネに 1 ステップさらに向上して欲しい」と話しかけたところ「やります！！」という力強い答えが返ってきた。

66kg 級

昨年までのこのクラスは絶対王者・井上雄介選手に、千葉の実力者・渋谷優輝選手が挑むという試合形式であったが、今回渋谷さんが 74kg 級にエントリーしたため、井上さんの独り舞台となってしまった。

その井上さん、SQ は 225kg、BP 第三試技で 165kg に成功、サブ TL390kg とした時点で、ほぼ優勝確定。DL は第三試技 263.5kg には失敗したものの第二試技で 255kg に成功、TL645kg の日本記録タイで 2 位に 70kg の大差をつけ優勝。このセッション、私は荒川大介国際審判、地元愛知の近藤陽二 1 級審判員と共に陪審員に入らせていただいたが、井上さんの試技を陪審員 3 人が「強いねえ！」とつぶやいて拝見していた。そんな中、僅かな見せ場は二位となった古清水駿選手が DL 第三試技で 263kg (失敗) の日本記録に挑んだ事であった。

このクラスの JR に出場した上述の佐竹選手と同僚・木内陽介選手は、九試技全部成功、DL 第三試技で 262.5kg の一般・JR 日本新を見事に引き切り、TL も 605kg という閣下で一般の部に出場すれば二位に相当する記録であった。

74kg 級

このクラスは DL で 300kg を引き切る力量の比嘉善浩選手を始めとして、上述の渋谷優輝選手、前年度同級チャンプ・伊勢崎勝史選手、DL が強い池上宏樹選手など役者が揃い接戦が期待された。

試合が開始されると比嘉選手が SQ で従来の日本記録を 24.5kg も更新する 270、BP152.5kg としサブ TL 時点で 422.5kg の断トツトップ、次いで渋谷選手 392.5kg、伊勢崎選手 390kg で続く。

DL 第一試技で比嘉選手が 275kg を軽く決めた時点で、TL692.5kg で優勝確定。比嘉選手は DL 第二試技で日本記録を更新すべく 292.5kg に挑みこれを引き切るも、途中で二段引きとなり失敗。伊勢崎選手は DL250kg TL640



西田選手 (旧姓寺原) の綺麗なデッド



岡田選手日本記録デッド 185.5 kg を引き初優勝

kgとし二位で試技を終えた。3位には得意のDL第三試技で257.5kgに成功した池上選手が、TL620kgとして体重差で滑り込み。最終試技者の比嘉選手の試技を会場全体で注目、申請は何と302.5kgであった。比嘉選手いつもと同じ動作で同重量に挑み、ゆっくりではあるがこの重量を引き切った。判定は主審が白、両副審が肩の返し不十分と判断して赤で、一旦失敗判定となったが、陪審員3名が成功試技と判断、判定覆しとなりTL725kgという驚異的記録で比嘉選手の優勝が確定した（陪審員の中には、選手及びセコンドからの抗議がない限り、陪審員が自主的に判定変更動くべきでないという考えの方もおられるが、私は「アスリートファースト」の観点から、審判の判定に疑問が生じた場合、自分から行動を起こすべきであると思う。今回の陪審員お三方の判断及び行動に賛同させていただく）。この記録がいかにとつともないか、昨年の千葉大会93kg級で黒船来襲と騒がれ、久保匡平選手との壮絶なバトルを制して見事に優勝したウエイトリフター山本俊樹選手のTLが710kgであった事を考えるとPL関係各位は納得されると思う。比嘉選手はF・P 523.72、女子の可児選手同様断トツのベストリフターに輝いた。次回JCPL大会で本来74kg級である国体83kg級二連覇の芦原徹選手との対決を期待したい。

83kg級

日本のパワーリフティング選手登録数は2,000名半ばであるが、私にとってその中の好きなリフタートップ3に入る福島勇輝選手と横田正敏選手が、ガチンコバトルを展開したこのクラス、とても見応えがあった。

SQは福島君232.5kg、横田君237.5kgとほぼ同じレベル、BPに入ると世界シングルBPチャンプの福島君が200kgを押し、貫禄を見せる。TXPに入会して苦手のBPを強化してきた横田君は145-155と軽く決め、第三試技160も軽く成功、ただこの160kgがあまりにも軽かったので、165kg程度でもよかったのではないかと試技を見ていて一瞬感じたが、結果的にこの直感は正しかった。

ここまで、勇輝君のサブTLは432.5kg、横田君は397.5kg、その差は35kgである。DLは横田君の得意種目で、

第一試技で勇輝君220kg、横田君250kgに成功してその差は一気に5kgに縮まった。さらに第二試技勇輝君230kg、横田君265kgに成功し、ついにここまでのトータル662.5kgで並んだ。体重は勇輝君が100g軽い。DL第三試技、勇輝君は235kgを頑張って引き切り、TL667.5kgで試技を終えた。横田君は逆転を賭け272.5kgに挑むが無情にもバーは浮かず、勇輝君の優勝決定。この二人は二年前の和歌山大会でも死闘を繰り広げ、その時はまだ新人とも思われた横田君がPL界のスーパーstar勇輝君を破って日本チャンプの栄冠に輝いている。表彰式で二人はお互いの健闘を讃えあい、笑顔でガッチリと握手していた。これからも二人で競って近い将来TL700kgの大台を超えていただきたい。



93kg級

このクラスは「伝説の強豪」の頑張り、上記83kgをも凌ぐ大接戦となった。

その伝説の強豪とは地元愛知MBC POWERの宇佐美清孝選手。昨年9月秋田でのジャパンクラシックマスターズPL大会で試合復帰した際には、得意のDLが262.5kg、TLも660kg止まりで、往年の力は戻っていないという印象

今大会では、各階級で優勝争いの面白さが展開された。



比嘉選手、302.5 kgの日本新記録を見事引ききる！男子ベストラフター賞獲得

であった。

今回 S Q 237.5kg B P 180kgでサブ T L 417.5kg 暫定 3 位で D L を迎えた。ここまでのトップは風張徹選手、S Q 252.5kg B P 197.5kg サブ T L 450kg と断トツであった。

2 位は岩手国体チャンプの落合広樹選手 SQ250kg BP180kg サブ T L 430kg、さらに宇佐美選手と同サブ T L 417.5 kg、体重差で D L が強い西川洋介選手が続いている。

風張選手は D L が得意で、私のイメージでは 270kg 前後は引く力を有しており、ほぼ勝負は決したかという印象であったが、後日ご本人に聞きしたところ、この三年間左右臀部、股関節、大腿四頭筋に故障が連続し、まともに練習が出来ず、これが 255kg に終わった原因であったとの事を確認できた。

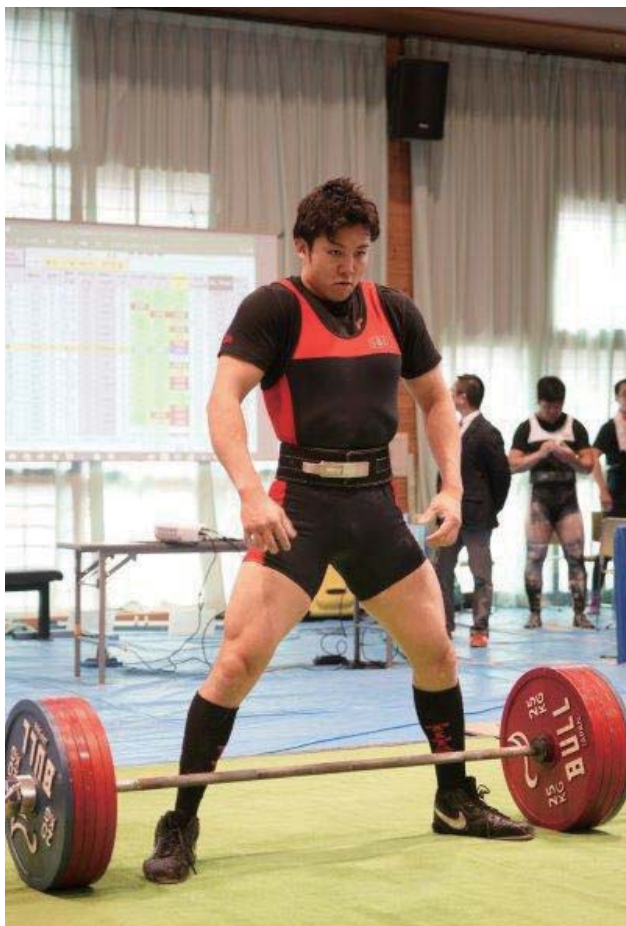
体調不良な中風張選手は頑張り D L 230 - 250 - 255 と三本とも決め T L 705kg で試技を終えた。落合選手は風張選手よりも体重が軽いので、257.5-272.5 と決め T L 702.5kg とした際、第三試技は 275kg という選択肢もあったが、絶対値で風張君、宇佐美さんに勝とうとしたのか 280kg に挑み失敗、702.5kg で試技を終えた。D L 第二試技で 282.5kg を引きこままでの T L 700kg とした西川選手は体重差逆転を賭け 287.5kg に挑むも失敗、そこで同重量に挑んだ宇佐美さんは、例によってゆっくりバーベルを浮かし、苦しそうに最後までバーベルを引き切った。判定は白 3、T L 705kg 体重差により風張君をかわし見事に J C P L 大会王者となった。その瞬間、場内は大歓声に包まれた。「伝説の強豪」宇佐美清孝選手の完全復活、心から祝福させていただく！！

昨年も黒船ウエイトリフター山本俊樹選手と久保匡平選手の死闘が展開されたこのセッション、今年も大会のハイライトであった。

105kg 級

このセッションは武田裕介選手の独壇場であった。

武田選手は私が会員である T X P のヘッドストレングスコーチで、ジムでの会員に対するととても丁寧なきめ細かい指導は特筆ものである。外見はかなり怖い、本当は気遣いの漢である。そんな武田選手は、全日本クラスの大会



83kg級の永井選手 (4 位)



日本パワー界の第一人者、優勝は譲らず！福島選手

では、大挙して出場する T X P の選手のセコンドで毎回大車輪の活躍、自分の試技の際には疲れ果てて実力の半分程度しか出せないという状況が多く、ジムでの強さを知っている私にとっては、武田選手の全日本大会をいつも歯がゆい思いで試技を覗いていた。ところが今大会では、第一試技で S Q 280kg、B P 195kg と軽く入るいつもの形ながら、S Q の第二試技 300kg、第三試技では 310kg の日本新をほぼ完璧に決め、B P でも 205-215 (日本新) を押し切り、サブ T L 525kg とした。D L は慎重に 265-285 と刻み、第三試技で 303kg の日本記録をこちらもほぼ完璧に引き切った。T L は 828kg、あの市川選手が持っていた日本クラシック P L 界の最重量 T L 820kg を見事に更新して見せた。

私はこのセッション陪審員に入っていたが、日本記録挑戦の際副審に入らせていただき、目の前で武田選手の快挙を拝見させていただいた。

試合後、陪審員長を務めていた荒川大介氏が武田選手を祝福した際には二人の会話はベラルーシュの世界クラシック P L 大会に飛んでいた。武田選手は「これで何とか世界大会でも後半のセッションには入れると思います。精一杯頑張ります！！」と語っていた。

120kg、120kg 超級

このセッションは記録的には低調で、120kg 級は T L 702.5kg で兵庫の阪田達也選手が、120kg 超級では、T X P の海老田選手が T L 695kg でそれぞれ優勝した。海老田さんは複数箇所の故障を抱え体調万全ではないにもかかわらず、頑張られたと思う。

団体戦は、男女とも T X P が優勝、ジム創設 4 年目での素晴らしい快挙である。オーナーの阿久津さんに「次は全日本 P L 大会団体優勝ですね！」と話しかけたところ「そうですね！！！」という力強い答えが返ってきた。

今大会、非常に参加人数も多く主管の愛知協会及び東海ブロックの役員の皆様は本当に大変であったろうと推測する。

素晴らしい大会を開催いただき、本当に有難うございました。心から感謝申し上げます！！



T X P 軍団を阿久津氏と共に引っ張る武田選手、クラシックパワーの最高重量を樹立して優勝